

～ 日本海難防止協会シンガポール連絡事務所発SRO news ～
(Ref No : 24-020)

1 12月12日、在パラオの小野臨時代理大使及び特定非営利活動法人日本地雷処理を支援する会（JMAS）パラオの島田代表は、日本 NGO 連携無償資金協力による「パラオ共和国における爆発性戦争残存物（ERW）処理、技術移転及び安全監視事業（第3年次）」の贈与契約書（65万9089ドル）に署名した。

JMASは、元自衛官の専門家を中心として、2012年からパラオの海中に残る第二次大戦中の不発弾、遺棄弾等のERW処理に従事している。

本事業では、爆雷等の処理に加え、爆雷処理作業に関わるパラオの環境レンジャー隊員への技術移転教育も実施しており、パラオ国民の安全と生活を守るとともに、パラオ最大の産業である観光業を支える同国海域の環境保全等へのパラオ政府の自律的な取組の推進に貢献している。

[原文](#)

(12th December 2024, 在パラオ日本国大使館)

[原文](#)

(13th December 2024, Island Times)

2 オーストラリア国境警備隊（ABF）は、トンガ歳入・関税省（MoRC）に対する国境警備の向上を目的とした一連の訓練プログラムの実施と資機材供与により、トンガとのパートナーシップを強化した。

参加者はグローバルサプライチェーンの課題と改革について議論するとともに、X線操作、麻薬識別、放射線検出装置の使用に焦点を当てた高度な国境警備技術訓練を実施した。

また、トンガの有能なX線技師と連携し、現地における訓練効果の向上を図った。

[原文](#)

(17th December 2024, Talanoa'o Tonga)

3 12月17日、バヌアツのポートビラ沖でマグニチュード7.3の強い地震が発生した。その翌日、マグニチュード5.5の地震が再びバヌアツを襲った。

1回目の地震では、建物が大きな被害を受け、車が押しつぶされ、一時津波警報が発令された。

ポートビラでは電気と水に影響が出ており、都市を結ぶ重要な橋も損傷しているという。

国連人道問題調整事務所（OCHA）は、この地震で 11 万 6000 人が被災したと推定している。

太平洋諸島フォーラム（PIF）は、バヌアツ政府と国民に対し、思いと祈りと哀悼の意を表した。バロン・ワンガ事務局長は、「PIF はバヌアツを支援する用意がある。」と語った。

フィジーのランブカ首相は、バヌアツの人々に政府の深い哀悼の意を表明し、「フィジーは可能な限りバヌアツを支援する用意がある。」と付け加えた。

ニュージーランド（NZ）のピーターズ外相は、「NZ 軍の偵察機が今朝バヌアツ上空を飛行する予定であり、地震による被害状況の把握に協力する。また、ポートビラの空港が再開されれば、捜索救助隊と救援物資を送る予定である。さらに、NZ の救急医療、民間防衛、領事、人道支援関係者も派遣予定である。」と述べた。

[原文](#)

(18th December 2024, Islands Business)

4 パラオのウィップス大統領は 12 月 18 日、殺人、入国管理詐欺、麻薬密売などの外国人犯罪に対抗するため、90 日間の入国管理に関する大統領令第 24-65 号に署名した。

この大統領令には、国家安全保障調整官に与えられた権限の範囲や、パラオの投資環境と労働市場に及ぼす潜在的な影響に関し懸念の声が上がっている。

この大統領令は、国家安全保障調整官にビザの新規取得、延長、更新の審査権限などを委任しており、正当な理由があれば取消も勧告される。

ある法律専門家は、「この大統領令は、明確な立法なしに、重要な権限を一箇所に集約するものであり、法的・憲法的な問題をはらんでいる。」と指摘する。

一部の企業は、投資家ビザや労働許可証の厳格な審査により、外国からの投資が抑制され、主要産業の労働力不足が深刻化する可能性があるとして述べている。

ウィップス大統領はこの大統領令について、最近パラオが国際刑事警察機構（INTERPOL）に加盟したことを背景に、治安と国家安全保障を維持するため必要な措置であり、身元調査を強化し、不正申請を発見する目的であると述べている。

この大統領令は、関係機関からのフィードバックをもとに、今後延長するか修正するかが決定される。

[原文](#)

(20th December 2024, Island Times)

5 トンガのソバレニ首相は、国会への不信任決議案の提出を前に、12 月 9 日、首相を辞任した。

12 月 24 日に無記名投票が行われ、元財務・国家計画大臣のアイサケ・エケ氏が新首相に選出された。エケ氏は、2025 年 2 月 3 日の議会で正式に就任する。

[原文](#)

(24th December 2024, Radio NZ)

6 ソロモン諸島の国営上下水道会社であるソロモン・ウォーターは、アジア開発銀行（ADB）から 9000 万ドル以上の融資と助成を受け、首都ホニアラにコングライ浄水場を建設し、2023 年から毎日 1500 万リットル以上の浄水を供給する計画であったが、現在、その浄水場の建設は進んでおらず、プロジェクトに充てられた資金はほとんど使われていない。汚染された水による感染症が相変わらず問題となっている。

In-depth Solomons にリークされ、OCCRP に共有された数万件の文書、電子メール及び関係者からの聞き取りによると、本プロジェクトの競争入札において、ソロモン・ウォーターが工事の履行能力に懸念を示したにもかかわらず、最低入札価格を提示したインドの共同 2 社にプロジェクトを請け負わせるよう ADB が圧力をかけた可能性がある。

2021 年後半の本プロジェクトに係るプラント建設の競争入札において、インドの Rean Watertech と P. C. Snehal LTD が共同で 1560 万ドルの入札を行った。これは競合他社でソロモン諸島での実績を持つ豪州の企業よりも約 500 万ドル安く、ソロモン・ウォーター社自身の見積もり 1960 万ドルよりも 20%安かった。このため、ソロモン・ウォーター社はあまりに安すぎると懸念を示し、1560 万ドルでは必要な機器や資材を調達することすらできないと入札を拒否するよう勧告する報告書を提出した。

しかしながら、プロジェクト関係者 3 人によると、ADB はこれを退け、入札を受け入れるよう働きかけたという。

オーストラリア国立大学のウッド研究員は、同じようなことが太平洋全域の他の開発プロジェクトにも見られる傾向であると指摘する。同研究員は、「ADB を含むすべての援助供与国は、利害関係者の意見に十分に耳を傾けない傾向がある。最悪の場合、プロジェクトがうまくいけば助かったはずの人命が失われることになる。」と述べた。

ADB は、このプロジェクトに関する具体的な質問や、インドの 2 社に発注された理由について回答を避けたが、「Rean Watertech と P. C. Snehal LTD の 2 社は ADB が融資するプロジェクトや活動に参加する資格があった。」と述べた。

Rean Watertech と P. C. Snehal LTD の 2 社は、再三のコメント要請に応じていない。

本プロジェクトの頓挫を受け、ソロモン諸島政府は、Rean Watertech と P. C. Snehal LTD の 2 社ではなく、ソロモン・ウォーターを非難した。2024 年 3 月、政府はソロモン・ウォーターのプロジェクト責任者の解任を要求し、ADB 資金へのアクセスを一時的に停止した。

さらに、水道事業を担当するトボシア大臣は、ソロモン・ウォーターの国営企業としての地位を 8 月に剥奪し、9 月の国会では、ソロモン・ウォーターは政府の優先事項を明らかに無視したと非難した。

記者団が現場を訪ねたところ、トボシア大臣の息子が作業員とともに近くに滞在していた。大臣の息子は、Rean Watertech と P. C. Snehal LTD の 2 社が自

分の所有する会社の下請けとして工事を依頼したことを認め、トボシア大臣にもそれを話したことを明かした。

彼は記者団に対し、2社からは掘削と整地作業を請け負ったが、何の契約も交わしておらず、作業内容に応じて報酬を支払うと言われたが、報酬が実際に支払われることはなく、作業を止めたと言った。

野党のウェイル党首は、記者団に対し、トボシア大臣の息子が仕事を請け負ったことは聞いていないが、彼に下請けさせたのであれば、仕事の大小にかかわらず大きな問題であると述べた。

記者団の取材に応じたトボシア大臣は、息子のプロジェクトへの関与を「小さな問題」と切り捨て、翌日回答すると約束したが、結局回答はなかった。

[原文](#)

(23rd December 2024, Pacific Island Times)

7 ユナイテッド航空は、2025年4月からグアムー台北間の直航便を就役させる。毎週水曜、土曜の週2便を運航し、往路便はグアム発 07:00、台北着 09:25、復路便は台北発 10:30 又は 11:00、グアム着 16:20 又は 16:50 を予定している。

機体はボーイング 737-800 型で、ビジネスクラス 16 席を含む 166 席を提供する。

グアム観光局の George Chiu 理事長は、日本以外からグアムに昼間に到着する数少ない便であり、市場に多大な恩恵をもたらすことになる述べた。

[原文](#)

(19th December 2024, Pacific Island Times)

8 12月19日、フィジーに新たに供与されたガーディアン級巡視船「RFNS Timo」が豪州から回航し、Walu Bay 海軍棧橋へ着岸する作業中、同船の左舷船尾を損傷する事故が発生した。

フィジー海軍の Tawake 司令官は、突風と係留していた他船によりスペースが限られていたことが事故に繋がったと説明したが、乗組員のうち何名かが酒に酔っていた可能性があるとの報告を受けたことを明かした。

事故の状況を徹底的に解明するための調査が進められている。

[原文](#)

(21st December 2024, Fiji Global News)